
京都府議会

農商工労働常任委員会

活動報告書



令和2年5月25日

委員長 藤山 裕紀子

副委員長 秋田 公司

副委員長 酒井 常雄

委員 小巻 實司

委員 宮下 友紀子

委員 森口 亨

委員 古林 良崇

委員 原田 完

委員 迫 祐仁

委員 西山 頌秀

委員 山本 篤志

委員 山口 勝



目次 京都府議会農商工労働常任委員会活動報告書

I 委員会の活動	1
1 委員会活動状況	3
2 調査に係る常任委員会の審議等の状況	
(1) 概要	9
(2) 重要課題調査のための委員会	10
① 農山漁村地域を支える関係人口の増加の取組について (R 1. 11. 25)	
② 京都農業を牽引する若手農業者の取組について (R 2. 1. 16)	
③ 若者の就職・定着支援について (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)	
(3) 出前議会	45
有害鳥獣対策について (R 2. 2. 5)	
(4) 管内外調査	48
① 管外調査 (R 1. 7. 23～7. 25)	
・株式会社ベジ・アビオ (新潟県新潟市)	
・新潟市アグリパーク (新潟県新潟市)	
・(公財) 燕三条地場産業振興センター (新潟県三条市)	
・三条ものづくり学校 (新潟県三条市)	
・富山県庁【於：とやま農業未来カレッジ】 (富山県富山市)	
② 管内調査 (R 1. 8. 26～8. 27)	
・京都経済センター (京都市下京区)	
・京都府立京都高等技術専門校 (京都市伏見区)	
・山城広域振興局【於：久御山町役場】 (久御山町)	
・中丹広域振興局【於：中丹広域振興局福知山総合庁舎】 (福知山市)	
・丹後・知恵のものづくりパーク (京丹後市)	
③ 管外調査 (R 1. 11. 12～11. 13)	
・直島町役場 (香川県香川郡直島町)	
・児島商工会議所 (岡山県倉敷市)	
・高松丸亀町商店街振興組合 (香川県高松市)	
II 委員会活動のまとめ	65
附 参考資料	81
農商工労働常任委員会 管内外調査等実施状況 (H28～R 1)	

I

委員会の活動

委員会活動状況

時期	活動	議題・テーマ
5 月		
R1. 5.24	委員会	<ul style="list-style-type: none"> ■委員長の選任 ■副委員長の選任 ■副委員長の順位
6 月		
R1. 6. 1	管内調査	○TANTAN ロングライド開会式（行催事等委員会調査）
R1. 6.10	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■出席要求理事者 ■確認事項 ■本日の委員会運営
R1. 6.10	委員会 （初回）	<ul style="list-style-type: none"> ■出席要求理事者 ■確認事項 ■所管部局の事務事業概要等の聴取 ■今後の委員会運営
R1. 6.24	正副委員長会	<ul style="list-style-type: none"> ■定例会中の委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営
R1. 6.28	委員会及び 予算特別委員会 分科会 （6定1日目）	<ul style="list-style-type: none"> ■報告事項の聴取 （農林水産部） <ul style="list-style-type: none"> ・京都府豊かな緑を守る条例に基づく「京都府森林利用保全指針」骨子(案)について ・「京都府農林水産ビジョン(仮称)」の策定について ・家畜診療料金等の見直しについて ・試験研究で開発された主な成果について ・包括外部監査結果に基づく措置状況について ■付託議案及び審査依頼議案(質疑終結まで)
7 月		
R1. 7. 1	委員会及び 予算特別委員会 分科会 （6定2日目）	<ul style="list-style-type: none"> ■付託議案(討論・採決) ■審査依頼議案(適否確認) ■所管事項の質問 ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営

1 委員会活動状況

<p>R1. 7.23 ～ R1. 7.25</p>	<p>管 外 調 査</p>	<p>■所管事項の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○株式会社ベジ・アビオ <ul style="list-style-type: none"> ・植物工場による苗生産及びICTを活用した高糖度トマト生産について ・施設視察 ○新潟市アグリパーク <ul style="list-style-type: none"> ・農業活性化に向けた同施設の取組について ・施設視察 ○(公財)燕三条地場産業振興センター <ul style="list-style-type: none"> ・燕三条の地場産業・観光振興の取組について ・施設視察 ○三条ものづくり学校 <ul style="list-style-type: none"> ・同校を拠点とした三条ものづくり産業振興の取組について ・施設視察 ○富山県庁[於:とやま農業未来カレッジ] <ul style="list-style-type: none"> ・就農支援の取組について ・現地視察(富山県立中央農業高校)
8 月		
<p>R1. 8. 3</p>	<p>管 内 調 査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○鴨川納涼2019オープニングイベント (行催事等委員会調査)
<p>R1. 8.26 ～ R1. 8.27</p>	<p>管 内 調 査</p>	<p>■所管事項の調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ○京都経済センター <ul style="list-style-type: none"> ・同センターの運用状況について ・施設視察 ○京都府立京都高等技術専門校 <ul style="list-style-type: none"> ・各訓練科における特色ある訓練内容について ・施設視察 ○山城広域振興局[於:久御山町役場] <ul style="list-style-type: none"> ・台風 21 号による被災農家の復旧状況について ・現地視察(久御山町藤和田、八幡市岩田) ○中丹広域振興局[於:中丹広域振興局福知山総合庁舎] <ul style="list-style-type: none"> ・農村地域防災減災事業について ・現地視察(福知山市東岡町(長谷池)) ○丹後・知恵のものづくりパーク <ul style="list-style-type: none"> ・北部の中小企業振興について ・施設視察
9 月		
<p>R1. 9. 3</p>	<p>管 内 調 査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「京都・くらしの文化×知恵産業展」オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
<p>R1. 9. 6</p>	<p>管 内 調 査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○令和元年度京都障害者ワークフェア (行催事等委員会調査)

R1. 9.10	管内調査	○京都創造者大賞2019 授賞式・記念講演 (行催事等委員会調査)
R1. 9.20	管内調査	○KYOTO CMEX 2019 レセプション (行催事等委員会調査)
R1. 9.21	管内調査	○令和元年度ふるさと海づくり大会 式典 (行催事等委員会調査)
R1. 9.24	正副委員長会	■定例会中の委員会及び分科会運営 ■委員会中に緊急速報メールが鳴った場合の対応 ■今後の委員会運営
R1. 9.26	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (9定1日目)	■委員会中に緊急速報メールが鳴った場合の対応 ■報告事項の聴取 (商工労働観光部) ・南田辺西地区(けいはんな学研都市)における環境事前 調査の結果について (商工労働観光部・農林水産部) ・関西広域連合第4期広域計画(中間案)について (農林水産部) ・「京都府農林水産ビジョン(仮称)」中間案について ・漁業法の改正に伴う関係条例の一部改正について ■付託議案及び審査依頼議案(質疑終結まで)
R1. 9.27	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (9定2日目)	■付託議案(討論・採決) ■審査依頼議案(適否確認) ■所管事項の質問 ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
10 月		
R1.10. 3	管内調査	○京都スマートシティエキスポ 2019 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
11 月		
R1.11. 9	管内調査	○京都ものづくりフェア2019表彰式典 (行催事等委員会調査)
R1.11. 9	管内調査	○第72回関西茶業振興大会京都府大会式典 (行催事等委員会調査)
R1.11.12 ～ R1.11.13	管外調査	■所管事項の調査 ○直島町役場 ・地域資源を活用した観光振興について ・現地視察(家プロジェクト) ○児島商工会議所 ・地場産業を核とした「児島ジーンズストリート」による商店 街賑わい再生について ・現地視察(児島ジーンズストリート)

1 委員会活動状況

		○高松丸亀町商店街振興組合 ・商店街活性化事業について ・現地視察(高松丸亀町商店街)
R1.11.25	正副委員長会	■本日の委員会運営
R1.11.25	委員会 (閉会中)	■所管事項の調査 ・「農山漁村地域を支える関係人口の増加の取組について」 参考人:株式会社ツナグム 代表取締役 田村 篤史 氏 毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト 代表 水口 一也 氏
R1.11.30	管内調査	○京都府農林水産フェスティバル2019 表彰式典 (行催事等委員会調査)
12 月		
R1.12.11	正副委員長会	■定例会中の委員会運営 ■今後の委員会運営
R1.12.12	委員会 (12定1日目)	■報告事項の聴取 (商工労働観光部・農林水産部) ・京都府地域創生戦略の改定について (農林水産部) ・「京都府農林水産ビジョン」最終案について ■付託議案(質疑終結まで)
R1.12.13	委員会 (12定2日目)	■付託議案(討論・採決) ■所管事項の質問 ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
R1.12.19	管内調査	○京都若手農林漁業者大交流会2019 (行催事等委員会調査)
1 月		
R2. 1.16	正副委員長会	■本日の委員会運営
R2. 1.16	委員会 (閉会中)	■所管事項の調査 ・「京都農業を牽引する若手農業者の取組について」 参考人:農家(丹後農業実践型学舎 2期生) 樋野 一平 氏 ロックファーム京都株式会社 代表取締役 村田 翔一 氏
R2. 1.22	管内調査	○瓶入り宇治茶ドリンク「玉兔」試飲発表会 (行催事等委員会調査)

2 月		
R2. 2. 1	管内調査	○第17回障害者技能競技大会(アビリンピック)京都大会 開会式(行催事等委員会調査)
R2. 2. 5	出前議会	○京都府立丹波自然運動公園 京都トレーニングセンター ・有害鳥獣対策について
R2. 2.13	管内調査	○「京都ビジネス交流フェア2020」オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
R2. 2.13	正副委員長会	■分科会運営
R2. 2.13	予算特別委員会 分科会 (2定先行審議①)	■審査依頼議案(質疑終結まで) ■審査依頼議案(適否確認)
R2. 2.20	予算特別委員会 分科会 (2定先行審議②)	■審査依頼議案(適否確認)
3 月		
R2. 3. 4	正副委員長会	■委員会及び分科会運営 ■今後の委員会運営
R2. 3. 4	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (2定1日目)	■報告事項の聴取 (商工労働観光部・農林水産部) ・新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況 (農林水産部) ・日米貿易協定による京都府農林水産業への影響について ■付託議案及び審査依頼議案(質疑終結まで) ■審査依頼議案(適否確認)
R2. 3.16	委員会 (2定2日目)	■報告事項の聴取 (商工労働観光部・農林水産部) ・京都府地域創生戦略(最終案)について ・「関西広域連合第4期広域計画(案)」について (農林水産部) ・京都府豊かな森を育てる府民税について ■付託議案(討論・採決) ■付託請願の審査 ■所管事項の質問 ■閉会中の継続審査及び調査 ■今後の委員会運営
R2. 3.19	正副委員長会	■分科会運営

1 委員会活動状況

R2. 3.19	予算特別委員会 分科会 (2定追加補正)	■ 審査依頼議案(説明聴取・質疑・適否確認)
4 月		
R2. 4.22	委員会 (閉会中)	※新型コロナ感染症の影響で中止
R2. 4.27	正副委員長会	■ 本日の委員会及び分科会運営
R2. 4.27	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (4 臨)	■ 報告事項の聴取 (商工労働観光部・農林水産部) ・新型コロナウイルス感染症に係る京都府の対応状況について ■ 審査依頼議案(説明聴取・質疑・適否確認)
5 月		
R2. 5.22	正副委員長会	■ 本日の委員会及び分科会運営
R2. 5.25	委員会及び 予算特別委員会 分科会 (5 臨)	■ 所管事項の質問(新型コロナウイルス感染症に関することに限る) ■ 審査依頼議案(説明聴取・質疑・適否確認)

2 調査に係る常任委員会の審議等の状況

(1) 概要

本委員会は、商工労働観光部及び農林水産部の所管並びにそれに関連する事項を所管している。主な所管事項は次表のとおりである。

主な所管事項
<ul style="list-style-type: none"> ○中小企業振興等産業、労働、雇用、観光、計量 ○農業、林業、水産業、農山漁村地域振興、農林水産物流通、森林保全・共生

京都府議会の各常任委員会では、年4回の定例会において、条例案などの審査を行うほか、議会の閉会中に委員会を毎月開催して、府政の重要課題について、テーマを設けて集中的に審議したり、京都府内や他府県に赴いて調査を実施している。

今期の農商工労働常任委員会の閉会中の調査活動では、参考人制度を積極的に活用して、専門的知見を有する方の意見を聴取し、テーマに関する議論を掘り下げた。

また、府民の皆様のさまざまな意見や思いを、府政の推進に活かすために、出前議会を開催し、有害鳥獣対策に取り組まれている方々から、取組状況や課題等を聴取し、意見交換を行った。

管内調査では、京都府の施策が実施されている現場等を訪問し、府の事業担当者や事業関係者の説明を聴取するとともに、現地視察を行った。

管外調査では、先進事例や京都府と共通する課題に対して、他の自治体や関係団体がどのような取組を実施しているのか、もしくはどのように対応しようとしているのかを調査した。

(2) 重要課題調査のための委員会

① 農山漁村地域を支える関係人口の増加の取組について

(令和元年11月25日 (月)開催)

■開催概要

本府においては、過疎・高齢化が急速に進む農山漁村における地域活動・コミュニティの維持を図るため、地域の再生や移住施策を推進してきたところである。

そのような中、地域社会の様々な課題を解決し、地域活動を活性化するため、これまでの施策に加え、新たに、都市住民や企業等が農山漁村地域と関わる機会を創出し、「参加型住民」ともいえる地域のファンづくり、いわゆる「関係人口」を増加させる取組を進めていくこととしている。

今回の委員会では、農山漁村地域を支える関係人口の増加の取組について参考人から聴取し、意見交換を行う。

■参考人

株式会社ツナグム 代表取締役 田村 篤史 氏

毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト 代表 水口 一也 氏

■進行

- 1 参考人から説明聴取
- 2 上記を踏まえて、質疑・意見交換



■出席理事者

【農林水産部】技監、理事（経営支援・担い手育成課長事務取扱）、農政課長、農政課参事、農村振興課長、農村振興課地域活性化担当課長

【田村参考人説明概要】

(本文中の図表は参考人作成資料より引用)



<p>人口減少 田舎地域で若い人がいない…</p>	<p>相談内容</p>	<p>空き家 住まい手もなく買い手もない…</p>
<p>人材不足 東京に優秀な人材が集中…</p>		<p>空き店舗 商店街や商店が埋まらない…</p>
<p>起業家不足 次世代の経営者が出てこない…</p>		<p>町家 どう活用していこうか…</p>

◆主な相談受付内容

- ・人口減少
- ・人材不足
- ・起業家不足
- ・空き家、空き店舗の活用
- ・町家の活用

<p>京都移住コンシェルジュ</p> <p style="background-color: red; color: white; text-align: center;">田舎地域へのUターン促進</p>	<p>事業内容</p>	<p>空き家改修支援</p> <p style="background-color: red; color: white; text-align: center;">企業や移住者とのマッチング</p>
<p>中途採用の支援</p> <p style="background-color: red; color: white; text-align: center;">Uターン人材と企業のマッチング</p>		<p>商店街活性の企画</p> <p style="background-color: red; color: white; text-align: center;">商売の担い手の発掘や誘致</p>
<p>コワーキングスペース支援</p> <p style="background-color: red; color: white; text-align: center;">起業家(個人事業者)の発掘</p>		<p>シェアスペースの運営</p> <p style="background-color: red; color: white; text-align: center;">シェアハウスなどの企画や集客</p>



◆主な事業

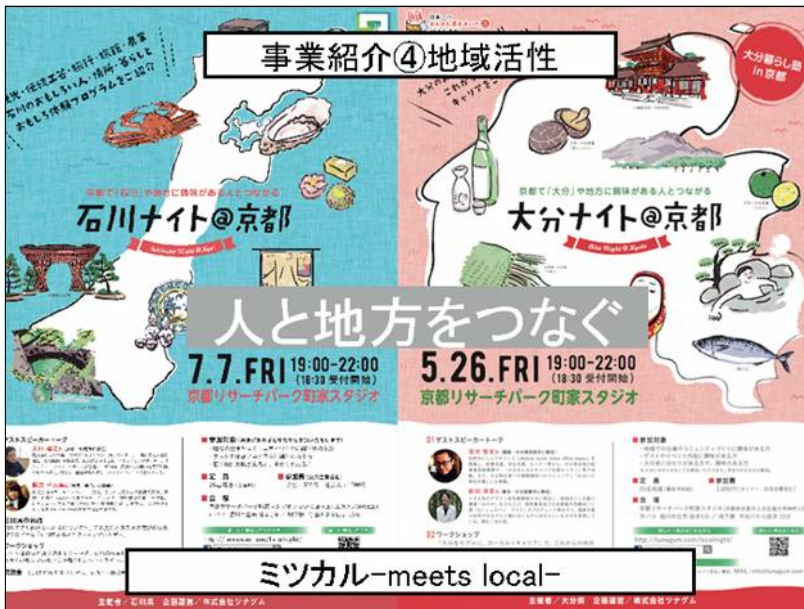
中小企業の採用支援として、京都移住計画を活用した求人サイトを開設

堀川中立売の町屋をシェアオフィスとして運用している。



京都・西陣ワークプレイス「385PLACE」で、コワーキングスペース及びシェアオフィスを運営している。

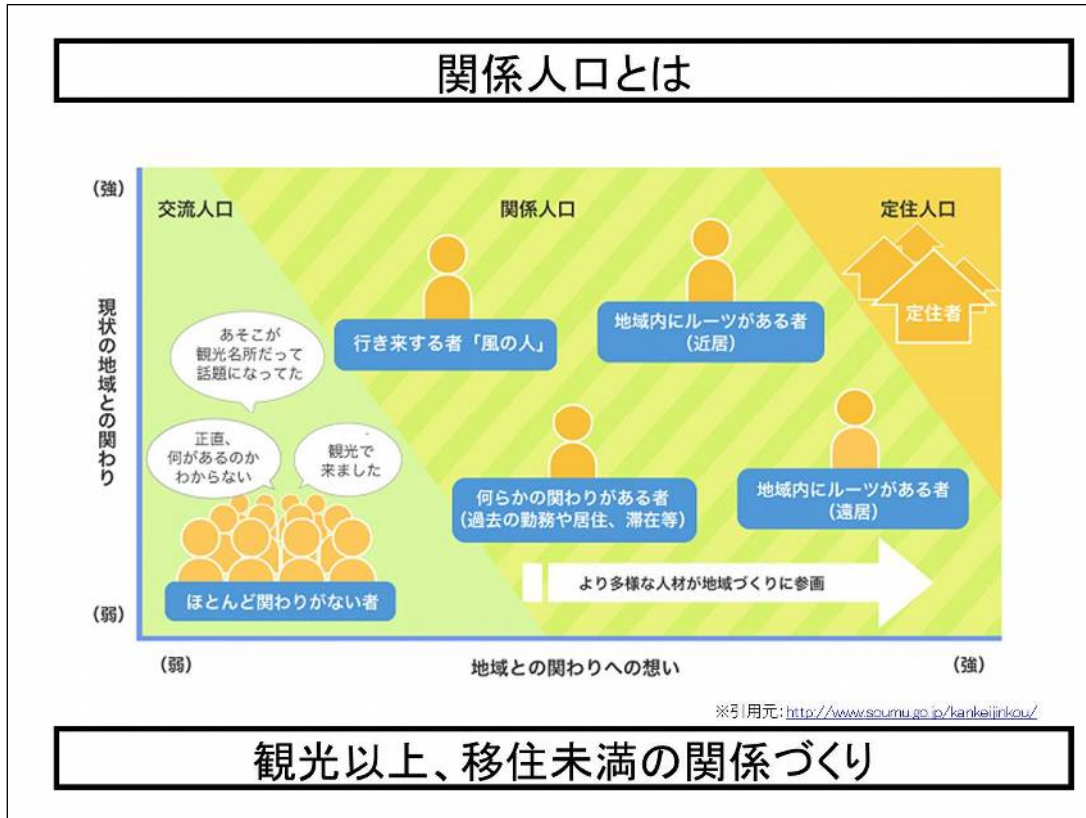
京都府の京都移住コンシェルジュ事業に取り組んでいる。



地方に目を向けるようなキャリアの流れをつくる「ミツカル」という事業を、いろいろな自治体と共同で取り組んでいる。

いろいろな方とともに場をつくっていくという事業を、神奈川県会社と提携し、事業を展開している。





- ◆ 「関係人口」という言葉の背景にあるもの
 - 居場所 (心理的安全性)
 - 地域に馴染めるか、家族の考え、子育て環境
 - 家 (住まい)
 - 空き家がない、家賃が高い、賃貸が少ない
 - 仕事 (収入面)
 - 仕事があるか、魅力的な仕事か、収入減

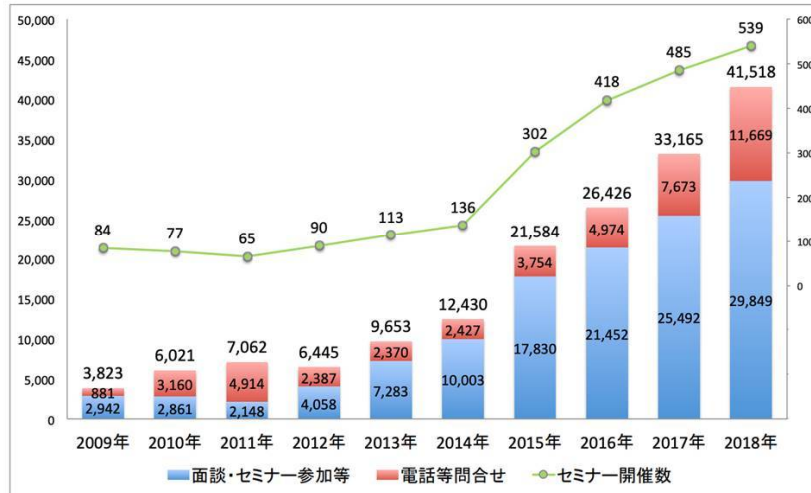
多様な働き方を認める社会的な流れ
 リモートワーク、コワーキングスペース、在宅勤務、シェアオフィス、ワーケーション、サテライトオフィス
 副業・兼業、復業

首都圏からの移住のハードルは、想像以上に高い

0 → 100 ではなく、継続的に地域と関わり続けていく

関係人口という言葉の背景

【暦年】来訪者・問い合わせ数10年間推移（東京：2009～2018年）



※引用元：ふるさと回帰支援センター

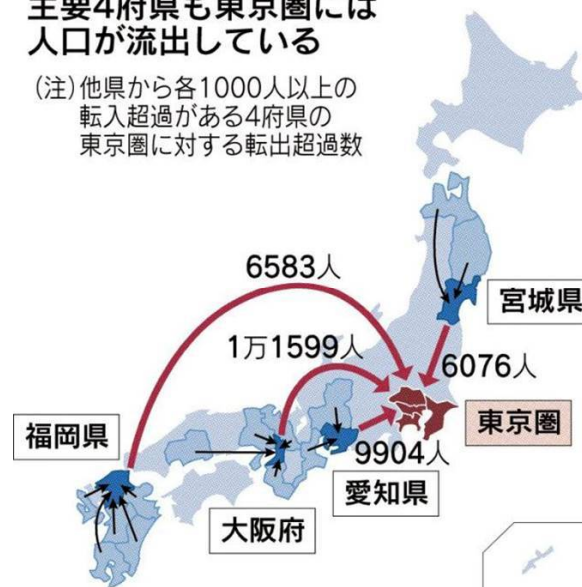
移住相談数は年々増加

認定NPO法人 ふるさと回帰支援センターの調査によると、移住相談数は年々増加しており、中でも、20代～40代の割合が年々増加している。

関係人口という言葉の背景

主要4府県も東京圏には人口が流出している

(注)他県から各1000人以上の転入超過がある4府県の東京圏に対する転出超過数

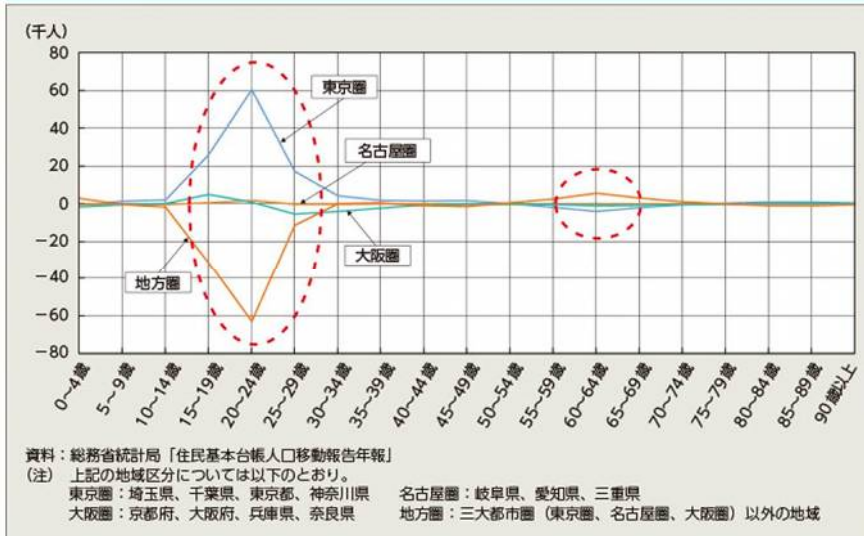


※引用元：2019/2/25付日本経済新聞 朝刊

2018年 転出入 東京圏に13万人5600人純増

関係人口という言葉の背景

図表 1-1-23 三大都市圏・地方圏の年齢別転入超過数の状況 (2014年)



※引用元：<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/15/backdata/01-01-01-023.html>

特に高校卒業後・大学卒業後の年齢層が流入

関係人口という言葉の背景

東京一極集中を示す 主なデータ

※東京圏は東京、千葉、神奈川、
埼玉の1都3県。総務省、文部科
学省の統計による



※引用元：<https://meiichi.jp/articles/20180120/k00/00m/010/143000c>

東京一極集中を示す主なデータ(一部)

関係系人口の取組の事例紹介

◆関係深化型（ゆかり型）

その地域にルーツがある者等を対象に、関係人口を募る仕組みを設け、地域と継続的なつながりを持つ機会を提供する取組

関係深化型(ゆかり型)

▼人・食という切り口で関心のある人達が集う場作り



丹後バル in 東京 30歳の成人式 京都食べる通信

▼首都圏における京都ゆかりのある人達向けのゼミやコミュニティ運営



首都圏で京都出身者が集うコミュニティづくり

◆関係創出型

これから地域との関わりを持とうとする者を対象に、地域と継続的なつながりを持つ機会・きっかけを提供し、地域の課題やニーズと、関係人口となる者の想いやスキル・知見等をマッチングするための中間支援機能を形成する取組

関係創出型

▼与謝野ワーキングステイトリアル



酒蔵編 染織編 農業編

▼美山トリアルワーキングステイ



建築 老舗旅館 自然学校

短期・中期の滞在型の就労体験

関係創出型

▼ワヅカナジカン(和東町)



中期滞在型 援農

▼ふるさと兼業(与謝野町)



リモートワークで地域企業に関わる

有限会社ウッドィーハウス(舞鶴) 株式会社松井物産(宮津市) NPO法人TEAM旦波(京丹後市)

中長期的な滞在型・リモートによる就労体験

◆裾野拡大型

都市部等に所在するNPO・大学のゼミなどと連携し、都市住民等の地域への関心を高めるための取組

裾野拡大型

▼橋大学によるローカルキャリア教育(京丹後市)



▼ヒューマン・フォーラム(京都市南丹市美山/右京区京北)



学生×社会人の研修機会としてのフィールド

◆裾野拡大(外国人)型

地域住民や地域団体等と連携し、外国人との交流を促進し地域(地域住民や地場産業)との継続的なつながりを創出するための取組

裾野拡大(外国人)型

▼Discover Another Kyoto(京都市右京区京北)



▼d matcha kyoto(和東町)



コミュニティ・ツーリズムの推進による雇用促進

その他の地域

▼U35世代による小布施若者会議→構想からの実証実験



小布施若者会議(2泊3日)

▼ハード整備とソフト整備の両輪による循環をつくる

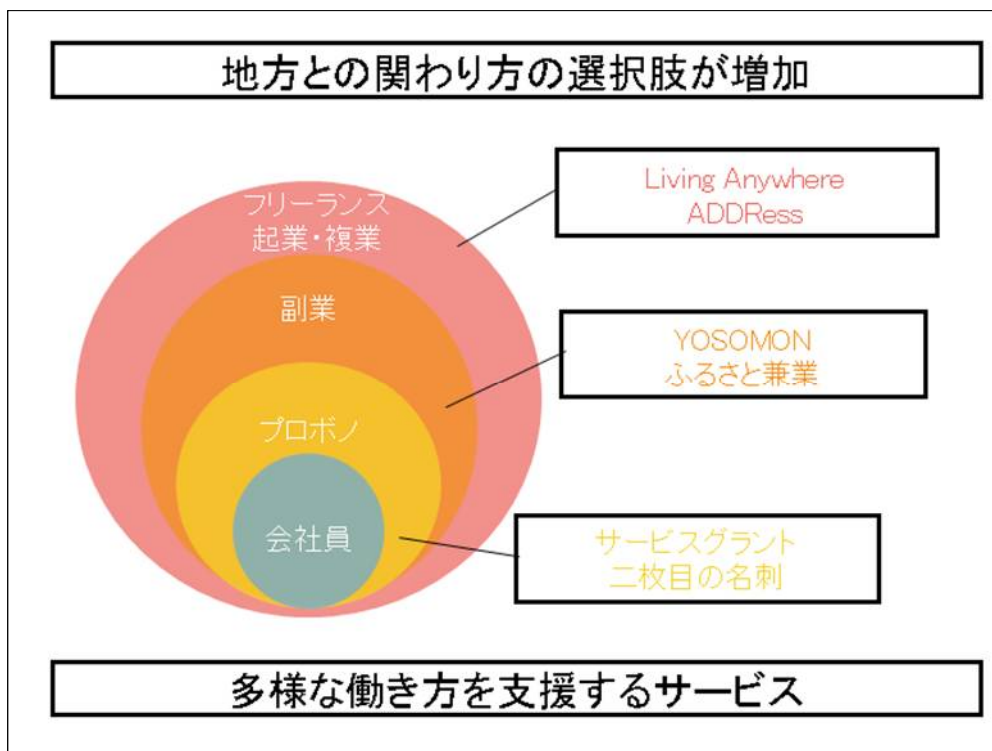
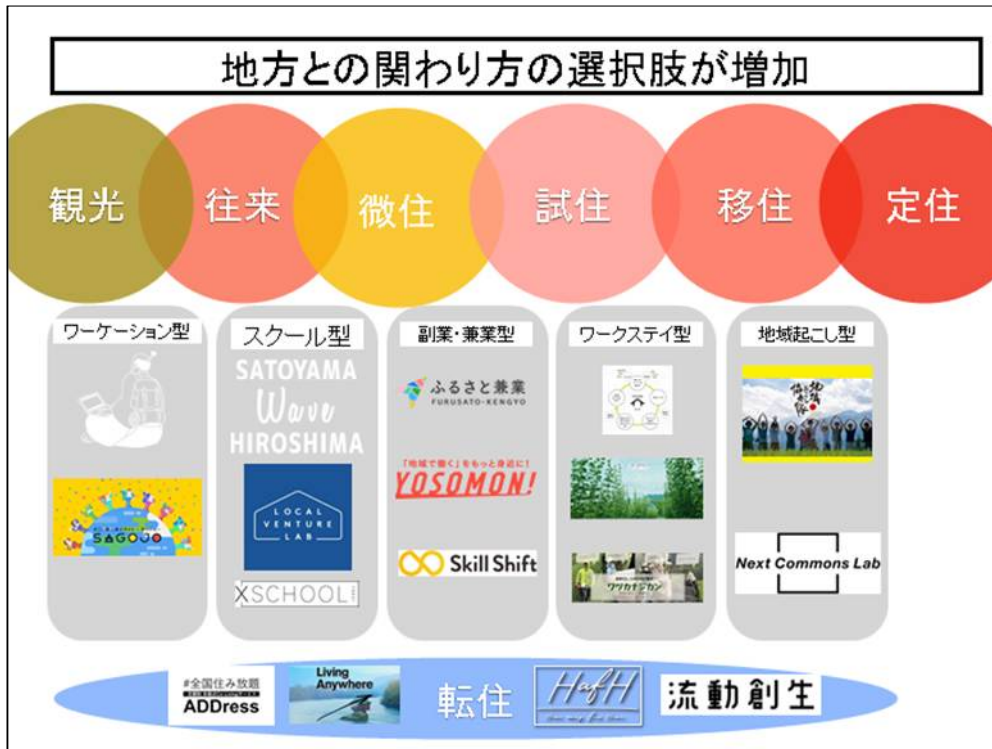


宿泊型のワークスペース

運動会に第二町民チーム参加

小布施見にマラソン

長野県小布施町

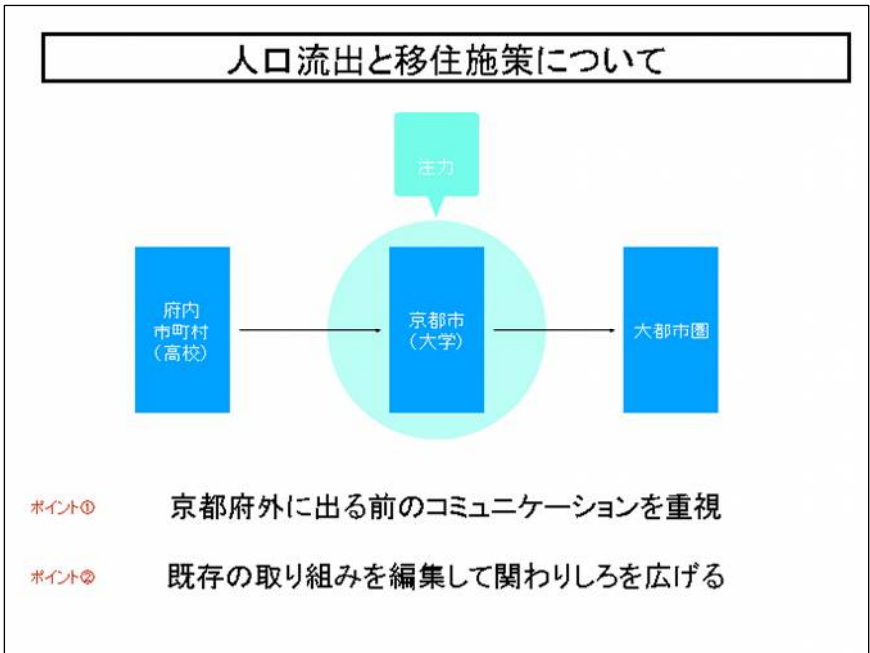


「ADDRESS (アドレス)」という、月額4万円で全国に登録された空き家に住み放題というサービスがあり、「多拠点」、「多住」という概念を持つ人たちが一定出てきている。

最近では、企業してフリーランスの人が地域に入っていくようなサービス等が出てきているので、それを利用する人も今後増えていくと考えられる。

今後の課題及び可能性について

東京一極集中は加速しており、東京に転出してしまっからのアプローチでは遅い。そこで、以下の施策が考えられる。



①コミュニケーションの重視
京都府内の大学生や社会人が府外に転出する前のコミュニケーションを重視

②既存の取組の活用及び発信
府内各市町村が既に素敵な取組を地域でされており、それらを発信することで、「その地域に関係してみたい」という人が増えてくるのではないかと。

新しいことをどんどん増やしていくというよりも、今あるものをどうしていくかが重要である。

るものをどうしていくかが重要である。

デザインの可能性




1村1デザイナー運動

③1村1デザイナー運動

既に活かすべき資源や企画や商品があるにも関わらず、デザインや発信の仕方が原因で、多くの人々に知られていないことがある。

デザイナーや情報発信を得意とする人材に関わってもらうことや、そういった人材を育成していく必要がある。

ワークスペースとしての活用



南丹市起業支援サテライトオフィスセンター
(南丹市園部町 元西本橋小学校内)



コワーケーションビレッジ MAIZURU
(舞鶴市)



綾部コワーキング新宮
(綾部市)

場に人を呼びぶソフト(企画や仕事)が不足

④ワークスペースとしての活用

府内各地で、遊休不動産の活用アイデアとして、シェアオフィスやコワーキングスペースが増えているが、働く場所を用意するだけでなく、仕事もセットで用意することが今、求められている。

ソフト連動型のハードづくり

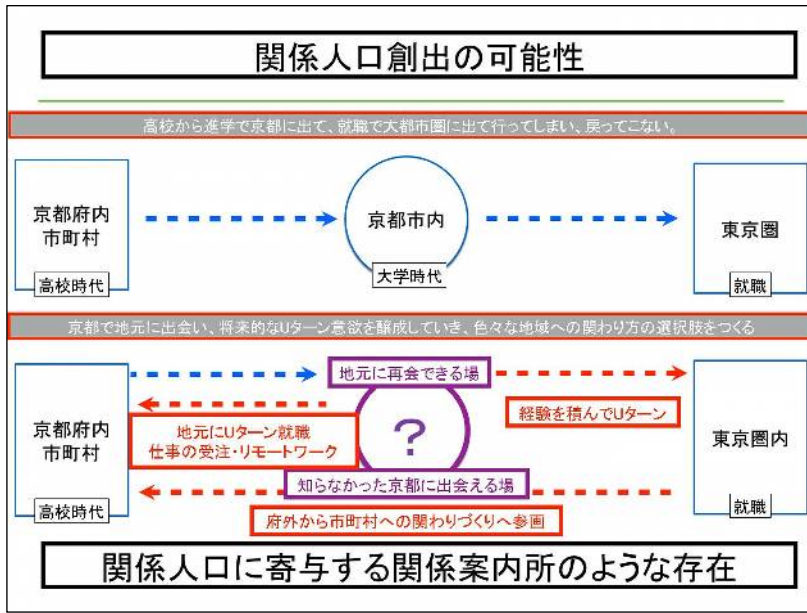


京の町家をリノベーション。ブックカフェと集いの場へ

⑤ソフト連動型のハード作り

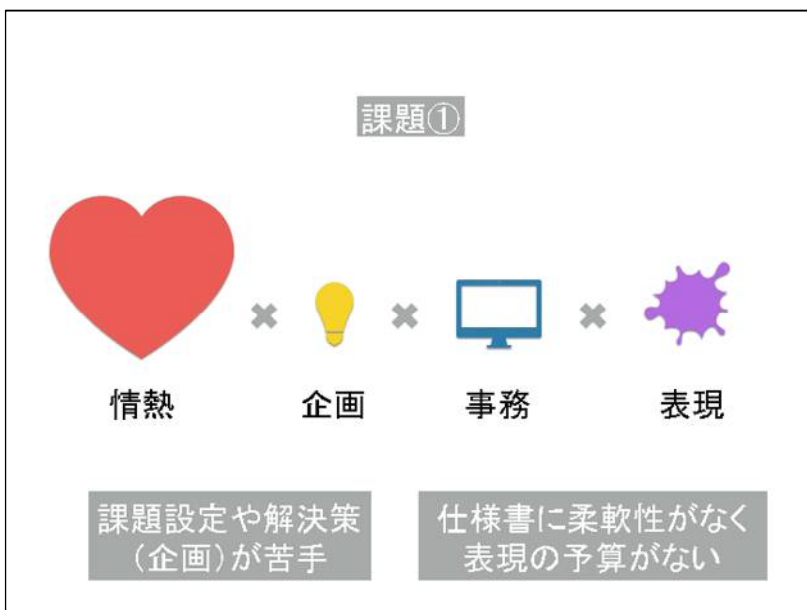
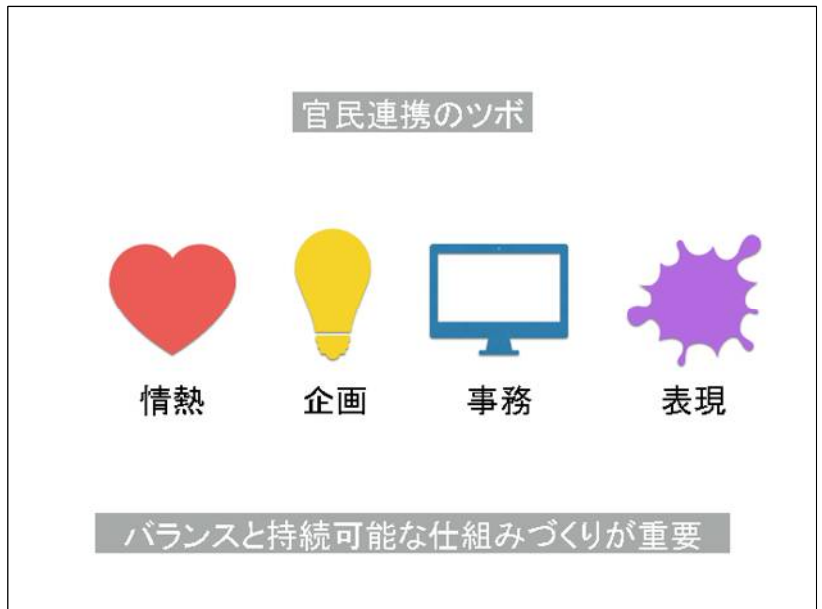
施主とともに、その場所をつくるというところからイベント化してワークショップを開くことにより、地域の人々が他人事ではなく、「自分たちの場所だ」という認識を持ってもらえるような建物の作り方や整備の仕方もあると考える。

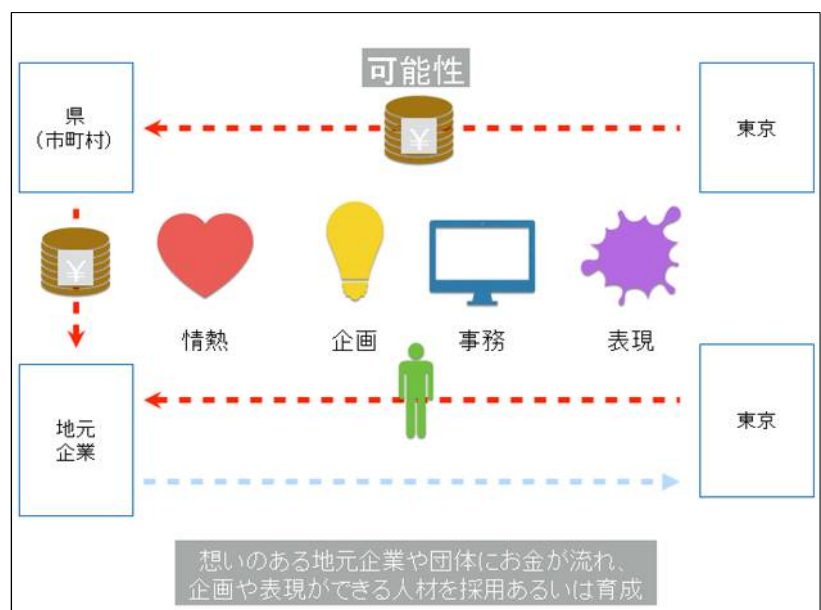
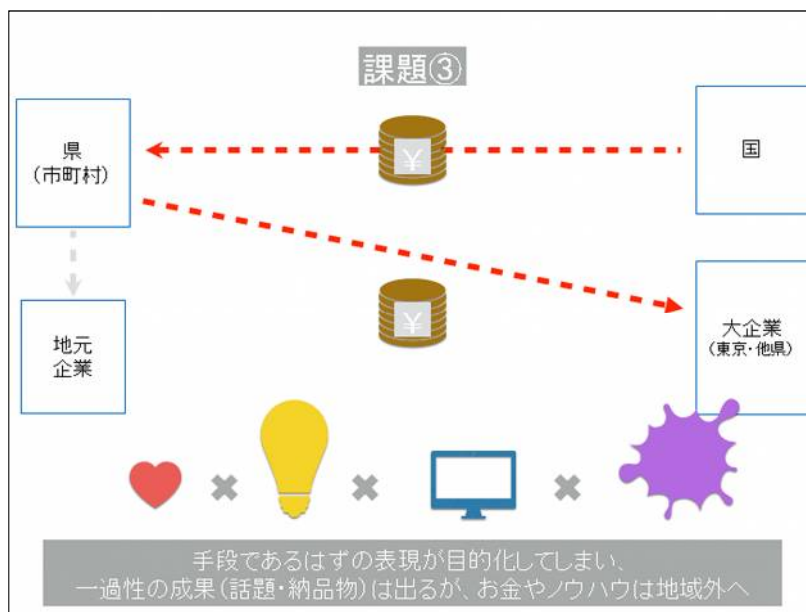
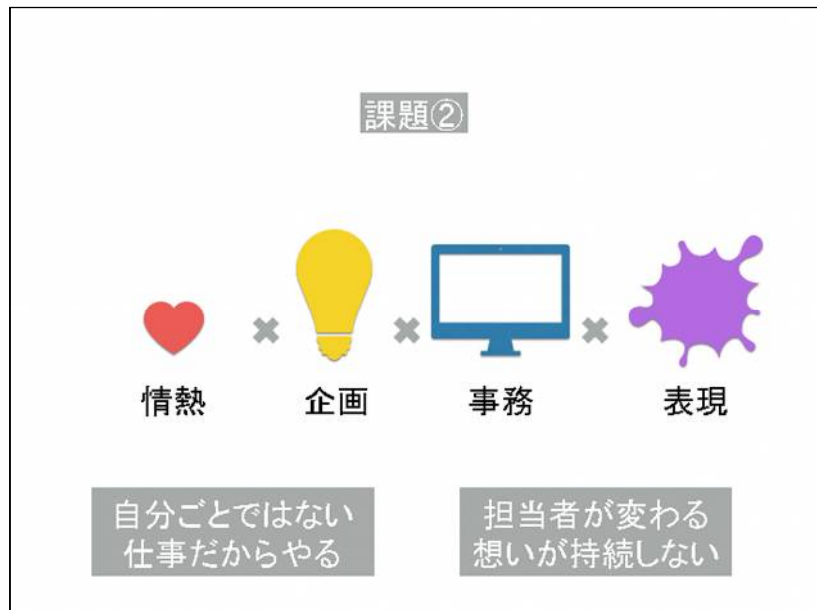
こういったところに府内産木材を使えたりするのも面白いと思っている。




⑥関係人口に寄与する関係案内所のような存在

進学等で地元を離れる人が多い中、その地域に「関係案内所」のようなところがあれば、将来地元に戻ろうと思う人が増えたり、府外から来た人には、その地域の魅力的な暮らしを知ってもらえたりと、いろいろな関わりが生まれるのではないかと。







関係人口の落とし穴




関係人口の落とし穴

- × 数を追わない
- × 移住をゴールにしない
- × ファンやサポーターと捉えない
- × 単なる労働力と捉えない
- × 類義語を増やさない


※月刊「ソトコト」編集長指出一正氏と三田研究員の対談より

風土づくりについて




【交流人口】




【関係人口】


共創 (コ・クリエーション)
夢・願い




ビジネス
課題解決




ライフ
スタイル
多拠点




体験
入り口




【定住人口】







風の人と土の人の出会いの共創デザイン

関係人口を創るポイント



「コ・クリエーション型関係人口」を創るポイント

- 1 フラットで対等な関係性**
 - 都市の人を先生としたり主役にならない
 - “地域の課題を解決しよう”というスタンスではなく、一方的に何かをもらってくるのではなく、「共に未来を創る／一緒に何かを生み出そう」というスタンス
- 2 根っこでつながる**
 - 得意ではなく「思っこの思い」でつながる
 - お互いの夢や願いを共有している
- 3 ワクワク・楽しむ・熱量 (オーナーシップ)**
 - 地域の人を楽しんでやりたいことをやるとその熱量が伝播する
 - 地域外の人のやりたいことを応援するのはなく、自分たちがやりたいかどうか
- 4 互いが進化する (自己変容)**
 - 互いに影響を受け合って、価値観が変化したり、人生が変化していく
- 5 受け皿の多様性とキャパシティ**
 - 地域外の人と接点を持ち、関係を継続する存在の多様性とキャパ (1人には限界あり)
 - 入口としての気軽に参加できる場やイベント等

コンテンツ(種)ありきではなく、土づくりから

「関係人口をどうするか」の前に、「どういう地域にしていくのか」というビジョンが最も重要である。それはつまり、「どんな風土を作っていきたいか」ということである。

【水口参考人説明概要】

(本文中の図表は参考人作成資料より引用)



毛原地区の概要

集落名 : 毛原 (けはら・けわら)
 位置 : 福知山市大江町
 鬼伝説の大江山連邦の麓に位置し、丹後と丹波の境にあり、集落の峠には宮津市に通ずる元普甲道の石畳の名残がある。
 標高100m~200mに位置し、周囲を山に囲まれ、勾配の斜面を活用した棚田の稲作が中心に営まれている小さな集落。
 戸数 : 13戸29人 (内移住定住9家族7人)
 高齢化率 : 50%超
 農地面積 : 8ヘクタール
 棚田 : 約600枚

平成11年には、自然流下による天水を貴重な灌漑用水として活用した昔ながらの営農や、災害防止機能、景観等が評価され「日本の棚田百選 (農林水産省)」に選定された。

平成19年に丹後天橋立大江山国定公園が新規国定公園として誕生し、毛原地区は国定公園地域に指定された。



平成20年には、京都府景観資産に、平成27年には、生物多様性保全上重要里地里山 (環境省)に指定される。

毛原集落の今日までの取り組みの経過

- 平成2年～平成4年 集落話し合い運動推進事業
(集落の将来像について話し合いを重ね、それを機に集落外の都市住民との交流を受け入れる気質を持ち続けている集落である)
- 平成9年～現在に至る 棚田農業体験ツアー調達
(16年目に改名:毛原の棚田体感ツアー)
- 平成9年～平成11年 ふるさと水と土ふれあい事業
(散策路(農道)整備・水車小屋・東屋展望台等)
- 平成9年 グラントカバープランツ事業
(畦管理の省力化と景観形成)
- 平成9年 イタリアンレストラン&ウェディングOZ開業
- 平成10年～現在に至る 棚田オーナー制度
(遊休農地への対応)
- 平成11年 農林水産省「日本の棚田百選」(農水省)認定
- 平成12年 グラントワークの実践
ん認定
(住民・企業・行政が一体となった村づくり計画)
- 平成13年 中山間地域等直接払制度を活用し棚田保全活動
- 平成13年 ふるさとの自然環境と歴史的風土保全活動事業
(ビオトープ池の整備)
- 平成18年 ログハウス建設
- 平成19年 丹後天橋立大江山国定公園の指定
- 平成19年 京都モデルフォレスト運動協定締結(毛原共存の森)
- 平成20年 京都府景観資産に指定
- 平成21年 酒吞童子の里大江とぶろく特区認定
- 平成22年 大江のとぶろく棚田の里開業
- 平成22年 農家民宿コテージ棚田の里開業
- 平成22年 棚田の里ブルーベリーガーデン開園
- 平成26年 ブラックベリーの摘み取り農園開園
- 平成27年 毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト設立
- 平成27年 京都モデルファーム運動協定締結
- 平成27年 生物多様性保全上重要里地里山(環境省)に指定
- 平成27年 毛原住民憲章制定
- 平成28年(株)叶匠壽庵(和菓子)の入村
- 平成28年 毛原村民証を発行
(毛原ファンから村外村民へ)
- 平成28年 クラウドファンディングで資金調達
(食品加工所が「ほし」～女性の声からはじまる資金)
- 平成28年 ピザ窯製作・火入れ式&ピザづくり体験会
(ボランティア募り手作り製作、ピザ体験会～交流～)
- 平成29年 毛原の棚田食品加工所竣工
- 平成29年 地域通貨「ナラ」運用開始
- 平成29年 京都市内で「1000年つづく里づくりセミナー8回講演」
- 平成30年 都市部農村交流会
(ブルーベリー栽培講習会、ブルーベリー摘み取り体験会
ジャムづくり講習会、ピザづくり講習会)
- 平成30年 縁側喫茶開設
- 平成30年 新品「黒豆の粕漬(復刻版)ふくちやまえも
- 平成30年 地域再生大賞 優秀賞受賞
- 平成30年 毛原プロモーションビデオ制作
- 平成30年 毛原の魅力再創造事業
(耕作放棄地でのヨモギ栽培開始、民話集の製作)
- 令和元年 村民と村外村民の共助&協働ネットワークによる生活支援事業の仕組み開発
(困りごとを地域内外のネットワークで専門家につなぐ)
- 令和元年 毛原放送局開局準備
- 令和元年 歴史の道百選に認定(毛原峠の元普甲道)

毛原の棚田

約29年前から様々な取り組みを展開し続けています

◆これまでの主な取組

○昭和26年

当時は126名が地域に暮らしていたが、徐々に人口が減少してきたことを受け、平成2年に地域で「集落話し合い運動」を始め、地域外の住民を受け入れることにした。

○平成9年

行政や地域活性化団体等と連携し、棚田の農業体験ツアーや棚田のオーナー制度を開始した。

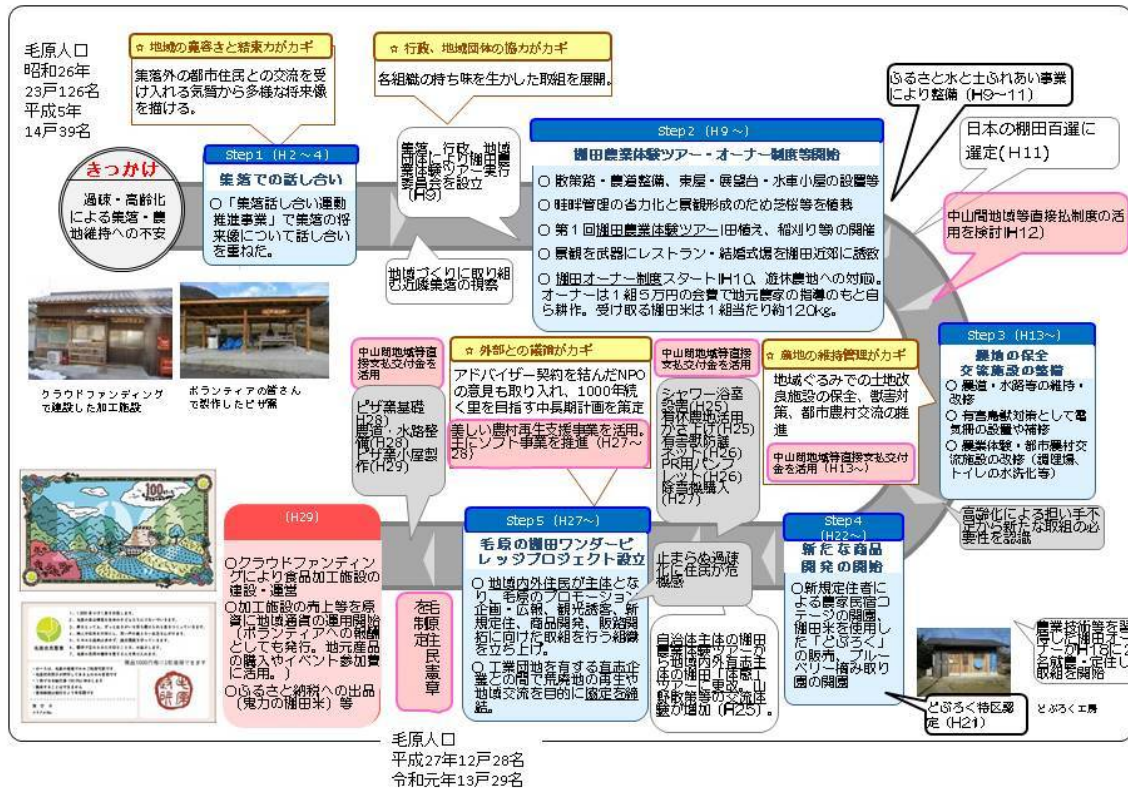
○平成22年

どぶろくの製造やブルーベリーガーデン、農家民宿を開始したが、それでも加速する人口減少を解決するため、平成27年に「毛原のワンダービレッジプロジェクト」を設立した。

○平成30年

「都市部農村交流会」では、ブルーベリー栽培やジャム作りの講習会を開催するとともに、「縁側喫茶」では、民家の縁側を開放し、訪れた人に対し、地域の年配者から、地域に伝わるさまざまな話をさせていただいている。

福知山市大江町毛原の約30年間の取り組み



福知山市大江町毛原の約30年間の取り組み



毛原の29年間の取り組みを紹介した中で 出てきたいくつかの「カギ」 ～おさらい～

Step 1 (H2～4)	☆ 地域の寛容さと結束力がカギ (集落での話し合い)
Step 2 (H9～)	☆ 行政、地域団体の協力がカギ (棚田体感ツアー・棚田オーナー制度など継続できているのは集落外の力)
Step 3 (H13～)	☆ 農地の維持管理がカギ (中山間地域等直接支払制度)
Step 4 (H22～)	☆ 新たな商品開発 (どぶろく特区・農家民宿・ブルーベリーカーデン)
Step 5 (H27～) 1000年つづく毛原の里づくり 将来ビジョン がんばる支え	☆ 外部との議論がカギ (美しい農村再生支援事業 ハードとソフト対策 NPOや京都市内の住民と交流)
	☆ 輝く女性活躍がカギ (食品加工所で地域ブランド商品開発で女性の力集まる)
	☆ 高齢化を活かした取組みがカギ (縁側喫茶 高齢者の地域活性化活動への参加機会)

高齢化集落での将来ビジョンは「1000年つづく毛原の里づくり」

新たな地域活性化の取り組み

毛原住民と毛原とともに暮らしを考えてくれている村外村民で活動する活性化グループ
毛原の棚田ワンダービレッジプロジェクト設立
 設立月日 27年7月29日



<ul style="list-style-type: none"> ・社会は地方創生の流れ ・20年前より集落外住民受入れる心の下地 ・起業家・事業者が入村共存しやすい環境 ・衣食住の全てに健康指向高まる ・国・府・市の移住定住推進施策 ・地域資源の有効活用化と農工商連携 ・インバウンド観光戦略化 ・2025年地域包括ケアシステム構築と「共助」推進施策の強化がせまる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減と高齢化による集落機能の低下 ・人口減と高齢化による棚田保全機能低下 ・高齢化によりイベント運営要員不足 ・伝統郷土料理の伝承途絶える ・伝統祭事の継承不可 ・元気なおばちゃんの出番なくひきこもり化 ・農産物の自家消費傾向化 ・鳥獣被害大 ・仏壇ある空き家や仕事がないから移住厳しい
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の棚田百選に認定 ・観光含め地域資源豊富である ・毛原で暮らす人を支える集落外住民連携あり ・20年前からの来村イベントでの知識と経験あり ・来村イベント参加者(顧客)年間500人ある ・毛原村民証発行で顧客の囲い込みできる ・歴史探求家との連携実績ある ・元気なおばちゃん健在だ ・集落内のイタアルストラ、ブルーベリーカーデン、どぶろく事業者との連携実績ある 	<ul style="list-style-type: none"> ・知名度やブランド力低い ・広報力が弱い ・豊富な地域資源が活かされていない ・奉仕イベントに疲労感残る ・従来イベントでは移住定住につながらない ・コンサルティング能力欠如 ・女性の活躍の場低下(元気なおばちゃん) ・農産物・観光資源の活用できていない ・高齢化集落での将来ビジョン

機会	脅威
強み	弱み

まずは内部要因の課題解決へ

◆平成27年以降の特徴的な取組

①「毛原住民憲章」の制定

「1000年続くまちづくりを目指す」など、住民憲章を作成

②「毛原村民証」の発行

地域を訪れる方たちに特典付きの村民証をお渡ししており、現在、100枚程度を発行

H27年以降の特徴的な取り組み 毛原住民憲章の制定

毛原住民憲章

- 1,000年つづく里を目指します。
- 毛原の里山環境を未来の子どもたちにつないでいきます。
- 年をとっても、ずっと生きがいを持ち続けられる里をつくっていきます。
- 隣人や住民を大切にし、笑い声の絶えない生活をつ心げます。
- むやみな成長は求めず、適正規模を守っていきます。
- 郡金で忘れられた大切なことを、お返しします。
- 毛原の自然や里山を愛する人を受け入れます。

毛原村民証

ピザ窯の製作

水車小屋の製作 **手づくり市の開催**

H27年以降の特徴的な取り組み

クラウドファンディング

地域通貨の発行

民話集の製作

ブルーベリー栽培講習会

緑側喫茶

薬物ビジネス
ヨモギ栽培を試行実施

プロモーションビデオの製作

③貨幣通貨の発行

ボランティアに来ていただいた方たちを対象に、再訪機会を投げかけるツールとして活用

④民話集の製作

高齢化に伴い、地域に伝わる民話が途絶えてしまうという危機感から、民話集を製作

⑤30年前の人気商品「黒豆の粕漬け」の復活

平成30年に、福知山市が認定する「ふくちやまのエエもん」に選定

～毛原を訪れたおみやげに、ぜひ買ってってえ～

黒豆の粕漬け が復活

大井町毛原の女性グループ

30年前に開発した珍味

約30年前の人気商品であった「黒豆の粕漬け」を復活させたい。当時のレシピを知る方は僅かとなりましたが、存命されている今なら復活される、今やらないと二度と復活させられない。

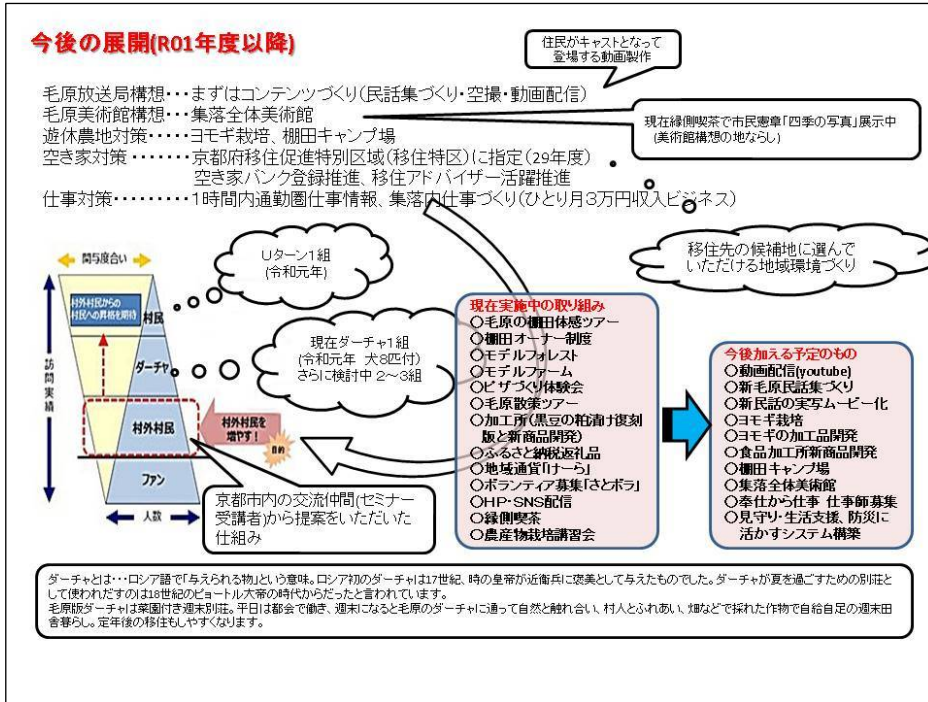
「開田の毛原(けはら)のおもてなし」

日本の朝田百選 福知山市・毛原の朝田

1000年続く里づくりをめざす福知山市の大江山地域に包まれた毛原地区では、かつて朝田の頃の毛原女性グループが開発した商品を約30年ぶりにその秘伝を伝授し女子グループが復刻版として商品化しました。

販売は、毛原の郷土食品加工所毛茶里、JA京都丹波の国「お茶園(福知山・嵯峨野)」、丹波大江山の大江山観光でお取り扱いしています。お土産などにも、積極的に取り扱います。手作りですので、在庫品の場合、お時間おたたいてくださいます。

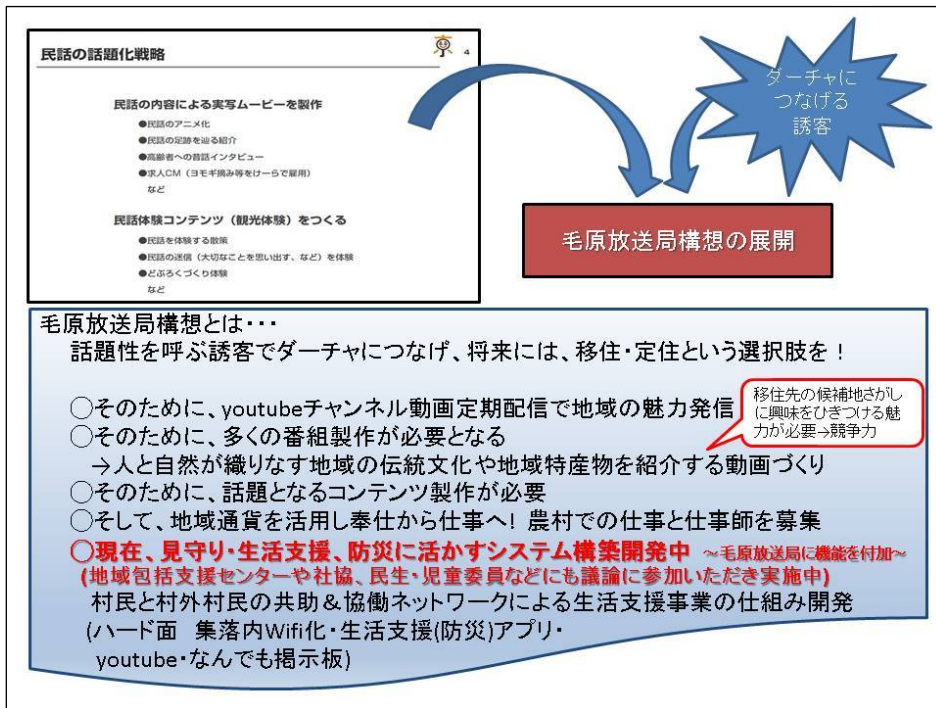
黒豆の粕漬け 復刻版



◆毛原版ダーチャ(※)(菜園付き週末別荘)

都会で働いている人に、週末に毛原を訪れてもらい、自然に触れ、村民と語り合い、畑でとれた作物で自給自足の週末の田舎暮らしを体験していただくもの。

※ 「ダーチャ」:ロシア語で、菜園付きセカンドハウスのことをいう。



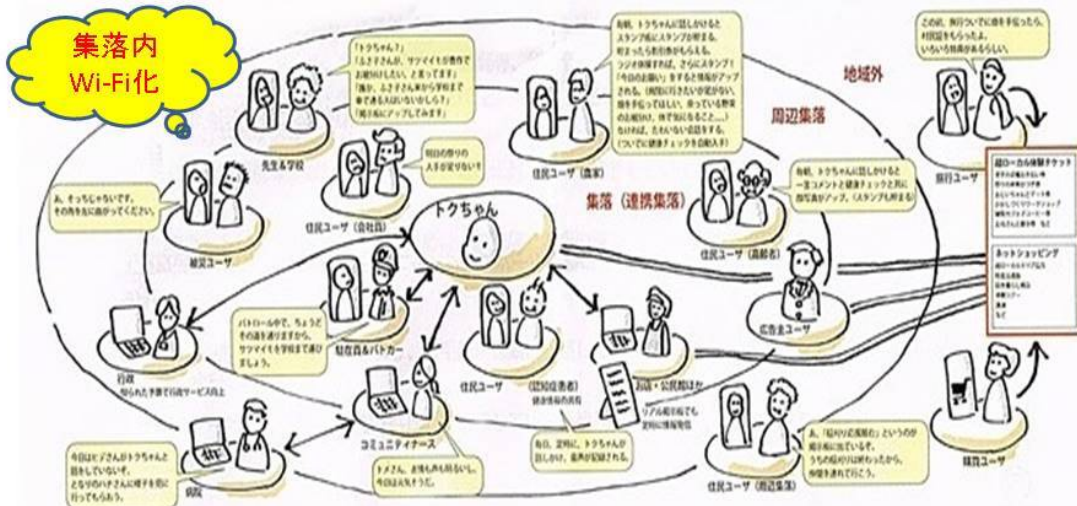
◆毛原放送局構想

毛原放送局で、人と自然が織りなす地域の伝統文化や地域の特産物を紹介する動画を配信し、ダーチャにつなげ、将来的には移住・定住につなげていきたい。

現在取り組み中の新たなプロジェクト(R01~R03年度) 3か年計画

住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境づくりを住民と集落外の住民の方との力で構築できたとき、その取り組みが新たに移住・定住を希望している者の心の琴線に触れ、候補地選定対象にきつとなると信じて…

村民と村外村民の共助&協働ネットワークによる生活支援事業の仕組み開発



ゴミ出し、草刈り、小大工、電球取り換え、移動サービス、収穫手伝

まとめ

この集落が1000年続く里であり続けるために



今後は、農・商・観光・移住・福祉・防災の各分野に関連する事業に挑戦する

小さな集落の全住民13戸29人+犬2匹山羊1頭(2019年10月現在)が主体となり、毛原の暮らしを考えてくれる村外村民とも一緒に取り組む

<1000年つづく毛原の里づくり>

そのために

- ① 移住・定住・Uターン者を増やすこと。
- ② そのためには毛原ファンをつくること。
- ③ ファンをつくるにはまず毛原を訪れていただきもう一度行きたいと思っ
ていただくこと。
- ④ 訪れていただくには毛原の魅力を発信すること。
- ⑤ 発信する以上住民自らが楽しく元気で熱意が持続し続けられていること。
- ⑥ 熱意の持続にはほんの少し収入が得られる仕組みをつくること。
- ⑦ そして、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境をつくること。

そのために 一歩ずつの歩みをとめないこと

まだまだ続く…

(2) 重要課題調査のための委員会

②京都農業を牽引する若手農業者の取組について

(令和2年1月16日(木)開催)

■開催概要

農業従事者や高齢化が進む中、地域農業を牽引する担い手の育成は喫緊の課題である。

そのような中、本府においては、就農希望者に対する相談から農作業体験、インターンシップ、就農・就業への誘導、段階に応じた技術や経営の研修、さらに農業機器や施設の導入支援を一体的に実施するとともに、農業法人や集落営農組織などに対しても、規模拡大や雇用促進による経営基盤の強化を図るなど、地域農業をリードする担い手対策に取り組んでいるところである。

今回の委員会では、府北部、南部それぞれの地域で奮闘し、次代の京都農業を牽引する若手農業者から、取組や課題等について聴取し、意見交換を行う。

■参考人

農家（丹後農業実践型学舎2期生） 樋野 一平 氏

ロックファーム京都株式会社 代表取締役 村田 翔一 氏

■進行

- 1 参考人から意見聴取
- 2 上記を踏まえて、質疑・意見交換



■出席理事者

【農林水産部】副部長、理事（経営支援・担い手育成課長事務取扱）、農政課長、農政課参事、経営支援・担い手育成課人材育成担当課長

【樋野一平参考人説明概要】

(本文中の図表は参考人作成資料より引用)

丹後農業実践型学舎 入舎理由

- ・研修用圃場でそのまま就農することができる。
- ・就農する圃場が準備されている。
- ・圃場整備がされている。(獣害柵の設置など)
- ・給付金がもらえる。(農業次世代人材投資資金)
- ・格安の寮がある。(研修生滞在施設、1部屋/1万円)
- ・JAなどへの販路が確保されている。
- ・同じ関西圏。(大阪出身)
- ・農産物に京都ブランドが使える。

卒舎後、丹後国営開発農地で就農できることや、給付金を活用することができる等の理由から、平成26年に京都丹後農業実践型学舎の2期生として入舎した。

丹後農業実践型学舎

- ・平成25年に丹後農業研究所にて開講
(京都府・京丹後市の共同事業)
 - ・丹後国営開発農地※を利用した大規模野菜作や京野菜の生産技術、農業関連座学などを研修
 - ・研修期間は2年間。1年目は丹後農研での集合研修を中心に、2年目は各個人毎に就農予定農地で実践研修
 - ・1～6期生 30名就農予定
- ※丹後国営開発農地
⇒512ha 53団地
(弥栄町の堤団地、芋野団地に入植)

経営内容 (栽培)

【耕作面積】 4.7 ha (丹後国営開発農地)

弥栄町堤団地 : 2圃場 (3.9 ha)

弥栄町芋野団地 : 1圃場 (0.8 ha)

【労働力】 1名

【栽培品目2019実績】

品目名	面積	主な出荷先
キャベツ	30+140a	業務用出荷など
長ダイコン	40a	西利、淡路農産など
大カブ	80a	西利など
ニンジン	20a	市場など
カンショ	30a	東京フードなど
カボチャ	30a	淡路農産、市場など

卒舎後、京丹後市で就農し、現在4年目で、個人でキャベツや長ダイコン、大カブ等を栽培し、出荷している。